

2月：「NAFSA を120%活用するためのコツ教えます」



日時：2008年2月22日（金）16:00～18:00

場所：早稲田大学大隈会館

参加者：12名

今回のNAFSA参加のためのオリエンテーションは、60周年を迎えるNAFSA年次大会への参加を検討している日本の大学関係者が、事前にNAFSAの内容について理解を深め、十分な準備をすることで、現地での活動が充実するようとの目的で開催した。今回講師を務めた5名は違った立場でNAFSAに参加してきた経験を持つので、異なるニーズを持つ参加者でも自分に必要な情報を得ることができたと思う。今回講師を務めたのは以下の5名である。

（以下発表順、敬称略）

NAFSA Japan-SIG Co-Chair, 岩手大学国際交流センター	尾中夏美
早稲田大学学生交流企画課	山田英貴
JASSO 留学情報センター	福井郁夫
名古屋大学留学生センター	堀江未来
JAFSA 事務局長	高田幸詩朗

<NAFSAの概要紹介>

NAFSAは年1回の年次大会を北米で持ちまわり開催し、昨年のミネアポリスでの大会には7000名の参加者が100近くの国と地域から集って、研修、情報収集やネットワークの場を提供した。今年は1万人規模の参加者を見込んでいる。NAFSAで設置されている地域やテーマによって作られる分科会(Special Interest Groups)のひとつであるJapan-SIGはSIGの中で最も古く今年20周年を迎える。毎年年次大会時に集会を持ち、今年は29日(木)に予定されている。

（補記）2008年度NAFSA年次大会開催日程：2008年5月25日(日)～30日(金)、於ワシントンDC

<対費用効果をあげるコツ—早稲田大学の事例から>

早稲田大学は前回11名が参加。協定校担当者との人間関係の構築、問題点や成功事例の共有、大学の国際化のアピールを目的としている。夕食会、朝食会に相手大学の担当者を集め、単位認定の仕組みや留学プログラムの中身などについて情報共有を実施した。一堂に会することにより協定校担当者同士の情報交換にも役立っている。協定校主催の夕食会、朝食会にも11名が手分けして精力的に参加した。帰国後は部内と関係学部へ報告書を回覧し、報告会も必要に応じて開催している。

<ブースの役割と活用法>

JASSO（以前はAIEJ）は1997年よりNAFSAに参加し、日本からの参加機関は例年16～32機関ある。時間を区切ってブーススペースを使用する共同利用と終日利用スペースがある。NAFSAでの留学フェアにおいては、目的の明確化、担当者の積極的な姿勢、自らの大学についての知識、適切な資料の準備、継続参加、が成功の秘訣と言える。

<セッション・ワークショップ・ネットワーキング>

NAFSA には自己研修の機会となる有料のワークショップ、様々な事例が発表されるセッションがある。聴衆としての参加だけでなく、プロポーザルを出してみることも有意義な参加方法だ。学会発表とは違い、専門性よりも情報提供的な要素が好まれる。締め切りが早いので要注意。NAFSA ではネットワーキングのチャンスも豊富。セッションを通じて、レセプションで、など臆せず友人を作ろうとする心構えが大切である。

<NAFSA における JAFSA>

日本の国際教育について広く知ってもらうために国際連携をしているが、NAFSA もそのひとつ。Japan-SIG 例会後に JASSO, JAFSA, Japan-SIG 合同レセプションも実施している。

画像を豊富に使用した個々の発表後、名刺は一箱以上持参する、宿舎はあっという間に満室が続出するので、できる限り早い時期に会場に近いホテルに予約する、足が疲れない靴を履くように、といった実務的な助言があった。参加者には今回の情報をぜひ本番で役立てていただきたいと思う。

報告者：尾中夏美